

# < 実践事例 渋谷区立広尾中学校 >

## 1. 取組・活動名

「広尾中・氷川地区合同防災訓練」

## 2. 取組・活動のねらい

- 初期消火や応急救護の対応方法、また、避難所開設時での取組内容や地域の方々との協力事項を体験することで、地域の一員としての自覚を養う
- 災害用トイレ設置、避難所ボード組立、初期消火訓練、D級ポンプ訓練、炊き出し（器具説明、備蓄品配布）、過去の災害（DVD）の視聴など、様々な訓練を継続（3年間）して実施することで、対応方法を身に付ける。

## 3. 教育課程上の教科名・時数

「総合的な学習の時間・3時間」

## 4. 実施上の工夫

- ・本校生徒の縦割り班に地域の方々に分かれて入り10名程度の班を編成し、全員が体験活動を行えるようにした。
- ・3年間をかけて繰り返し体験を重ねていけるようにしている。生徒には、「実際に災害が起こった時に行動できる生徒を目指している」ことを説明したうえで実施するようにし、目的意識をもって取り組むようにした。
- ・数回体験した教員も、関係諸機関の指導者とともに指導し、教員も地域の方々と避難所を運営していくという意識を高めるようにした。

## 5. 本取組・活動の内容



### 「D級ポンプ訓練」

#### 【1 指導者】

消防署員

#### 【2 実施内容】

- ・初期消火の目的や留意事項の説明
- ・D級ポンプの操作方法
- ・消防署員による模範演技
- ・二人一組での体験活動
- ・学校周辺の取水管の位置確認と器具設置方法の説明等



### 「応急救護訓練」

#### 【1 指導者】

日赤看護大学職員

#### 【2 実施内容】

- ・応急救護の目的や留意事項の説明
- ・三角巾の使用方法説明と二人一組での体験活動
- ・心臓マッサージ、人工呼吸の実施方法の説明
- ・一人で行う場合、二人で行う場合の実践



### 「避難所開設後訓練」

#### 【1 指導者】

防災課職員

#### 【2 実施内容】

- ・避難所開設時に行うことの説明
- ・災害に関するDVDを視聴し、過去の災害から避難所が行う役割について学ぶ
- ・災害用トイレの設置、間仕切りの組み立て体験、炊き出し訓練の実施方法の説明
- ・学校内にある防災倉庫の見学等

## 6. 成果

- ・指導員からだけでなく、すでに体験している上級生から実施内容の補足説明があったり、実施内容のアドバイスがあったりする班もあり、継続した指導の成果が見られた。
- ・地域の方々を含めた班編成をすることで、生徒と地域の方々で、できることの分担をして実施するという体験ができた。
- ・月に一度実施している避難訓練の、次の段階の訓練を体験することができ、災害発生から避難所運営までの流れを理解することができた。また、避難所の役割や協力して行っていかなければならないことが、体験をしながら理解できた。